

高血圧と脳血管障害

荒木 睦子 *Mutsuko Araki* (広島大学大学院医歯薬保健学研究院脳神経内科学)

細見 直永 *Naohisa Hosomi* (広島大学大学院医歯薬保健学研究院脳神経内科学講師)

松本 昌泰 *Masayasu Matsumoto* (広島大学大学院医歯薬保健学研究院脳神経内科学教授)

● key words 脳梗塞/脳出血/抗血栓療法/糖尿病/高血圧

はじめに

脳卒中は、癌、心臓病、肺炎とともにわが国の主要死因に含まれ、高血圧はその強力な危険因子である。血圧値と脳卒中発症率の関係は直線的な正の相関関係にあり、血圧が高いほど脳卒中の発症率は高くなる。また高血圧の影響は脳卒中臨床病型ごとで異なり、脳出血、ラクナ梗塞が最も高血圧との関連が強いことが久山町データで示されている。脳卒中の一次予防、二次予防いずれにおいても厳格な血圧管理はきわめて有効である。

さらに脳卒中の大半を占める脳梗塞患者は従来考えられていた以上に、糖尿病(耐糖能異常を含む)を合併していることが明らかとなり、再発予防の観点から糖尿病の積極的な評価、早期治療介入を常に考慮する必要がある。糖尿病に合併した脳梗塞や一過性脳虚血発作の予防には、糖尿病に対する血糖コントロール強化療法よりも、合併した高血圧や脂質異常症に対する降圧治療やスタチン療法が効果的である。

本稿では、近年増加している糖尿病患者における脳血管障害の特徴について概説し、JSH2014に準じて脳血管障害の一次予防、二次予防と抗血栓療法患者における血圧管理について述べる。

I. 糖尿病患者における脳血管障害の特徴

1 脳卒中発症に及ぼす影響

糖尿病が脳梗塞の独立した危険因子であることは、すでにわが国および欧米の多数の疫学研究により示されている¹⁾²⁾。

糖尿病と心血管イベントの発症について、102の前向き研究のメタアナリシスの結果より、糖尿病患者の脳梗塞発症リスクは2.27倍と有意に高く、特に女性、若年者(40～59歳)、body mass index (BMI) 高値の場合にハイリスクであることが示された(図1)¹⁾。久山町研究では、糖尿病患者の脳梗塞発症リスクは男性で2.54倍、女性で2.02倍であった²⁾。また、The Japan Public Health Center (JPHC) Studyにおいて、40～69歳の男性13,129人、女性22,528人を12年間(中央値)追跡調査した結果では、男性の糖尿病患者の脳梗塞発症リスクが正常血糖患者の2.22倍、女性の糖尿病患者の脳梗塞発症リスクは3.63倍であった³⁾。

脳出血に関しては、糖尿病の危険因子ではないと考えられてきたが、前述のメタアナリシス¹⁾では、糖尿病患者の脳出血発症リスクは1.56倍であり、糖尿病が脳出血の発症の危険因子であることも示唆されている(図1)。JPHC Studyの結果でも糖尿病では脳出血発症リスクが1.62倍であることが示された³⁾。脳出血発症のリスクは壮年期から上昇し始め、加齢に伴いその発症率は増加する。高血圧、喫煙、飲酒が脳出血発症の危険因子であり、2型糖尿病による脳出血発症リスクはまだ確認されていないが、1型糖